

成長可能性に関する説明資料

株式会社JMC

証券コード：5704

2021年7月

I . 会社概要

II . 当社の特徴・強み

III . 事業環境と今後の成長戦略

I. 会社概要

II. 当社の特徴・強み

III. 事業環境と今後の成長戦略

会社概要



[会社名]	株式会社JMC
[設立]	1992年12月
[資本金]	782,671千円
[上場市場]	東京証券取引所マザーズ(5704)
[従業員数]	140名
[代表者]	代表取締役社長兼CEO 渡邊大知
[本社所在地]	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番5号

ホームページのご案内



当社ホームページでは決算情報・プレスリリースのほか、各事業の詳しい内容を発信しています。



www.jmc-rp.co.jp

会社概要

経営理念

MADE BY JMC

ビジョン

ものづくりに知性を。



株式会社JMC

代表取締役社長兼CEO

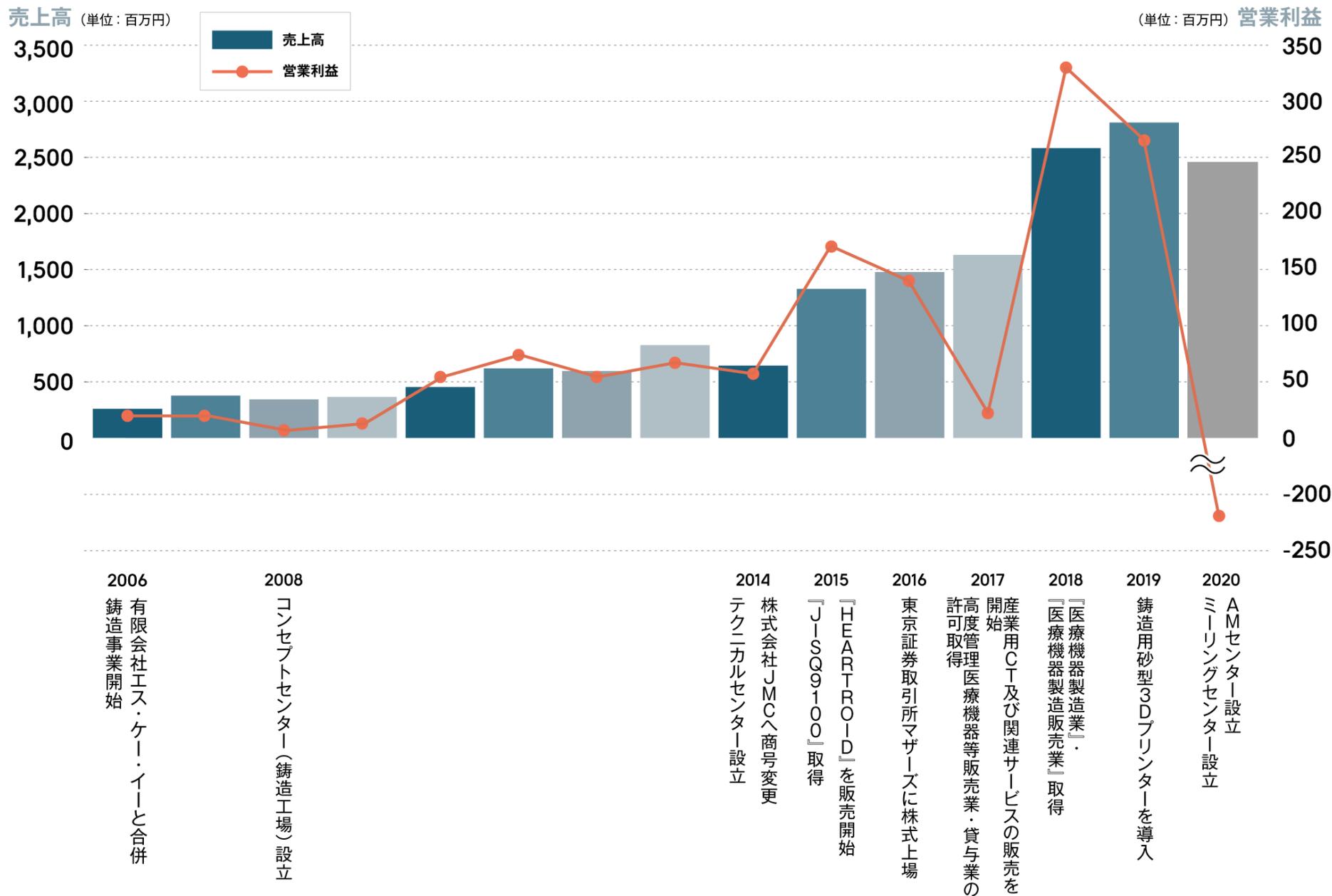
わたなべ だいち
渡邊 大知

1999年9月に横浜の住宅街にある小さな町工場として、当時珍しかった3Dプリンター装置1台で製造業に参入した当社は2006年に、鑄造事業を営んでいた有限会社エス・ケー・イーと合併し、我々の強みであるデジタル技術に、アナログ技術の代表である鑄造を組み合わせることで、「品質」と「スピード」を兼ねそなえた、次世代の鑄造事業を実現しました。

2017年には、鑄造事業の中で行われた産業用CTによる検査工程を切り出し、CT事業としてサービス化し、試作・製造・検査という一貫したバリューチェーンを有する、お客様の課題を解決するパートナー企業として厚い信頼を獲得できるまでに至りました。

2019年、新たな経営理念として「MADE BY JMC」を掲げ、ブランドの一新を行いました。この経営理念には、「JMC」という強固なブランドを日本の製造業の中に確立し、製造業のスタイルを自分たちが変えていくという、強い想いが込められています。

業績推移



工場紹介

コンセプトセンター
長野県飯田市
鋳造事業、CT 事業

ミーリングセンター
静岡県浜松市浜北区
鋳造事業

本社
神奈川県横浜市港北区
3D プリンター出力事業
CT 事業

AMセンター
神奈川県横浜市港北区
3D プリンター出力事業

JMC MADE BY JMC

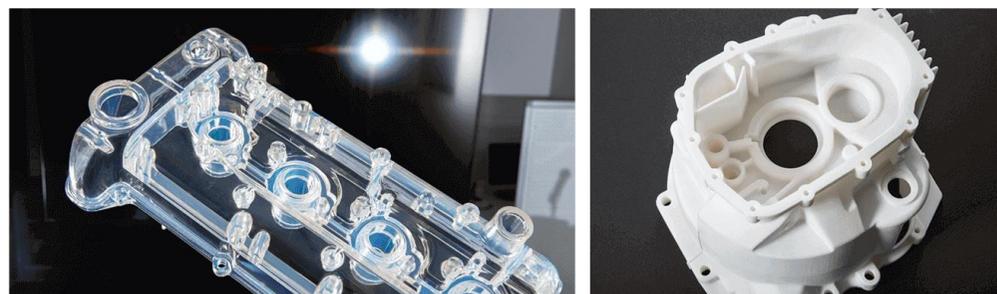
© JMC Corporation All Rights Reserved.

事業紹介



鑄造事業

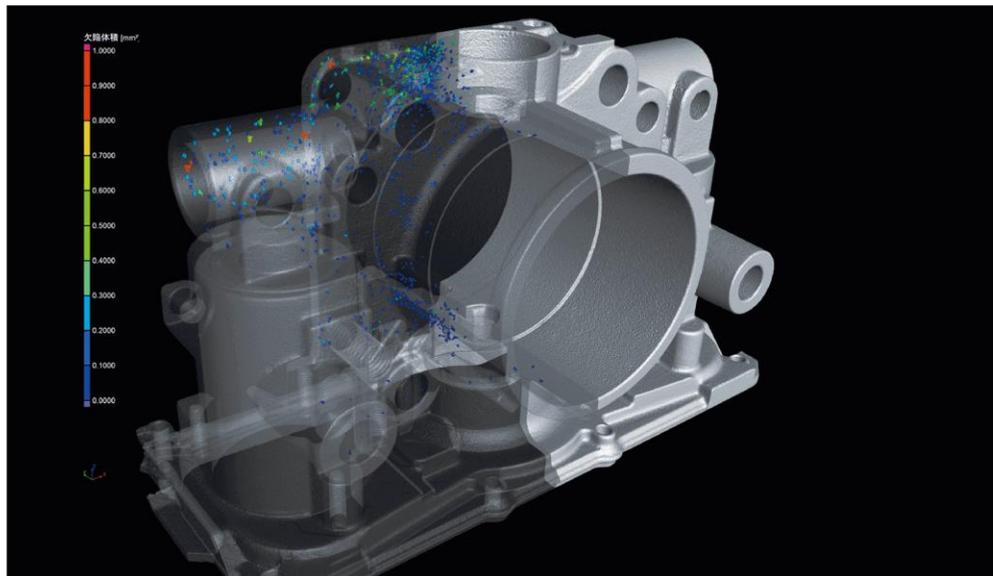
精密砂型鑄造による試作、小ロット量産を行っています。柔軟な材料対応力と、社内一貫生産による短納期対応、産業用CTを始めとする最新機器による高度な品質保証を特徴としています。



3Dプリンター出力事業

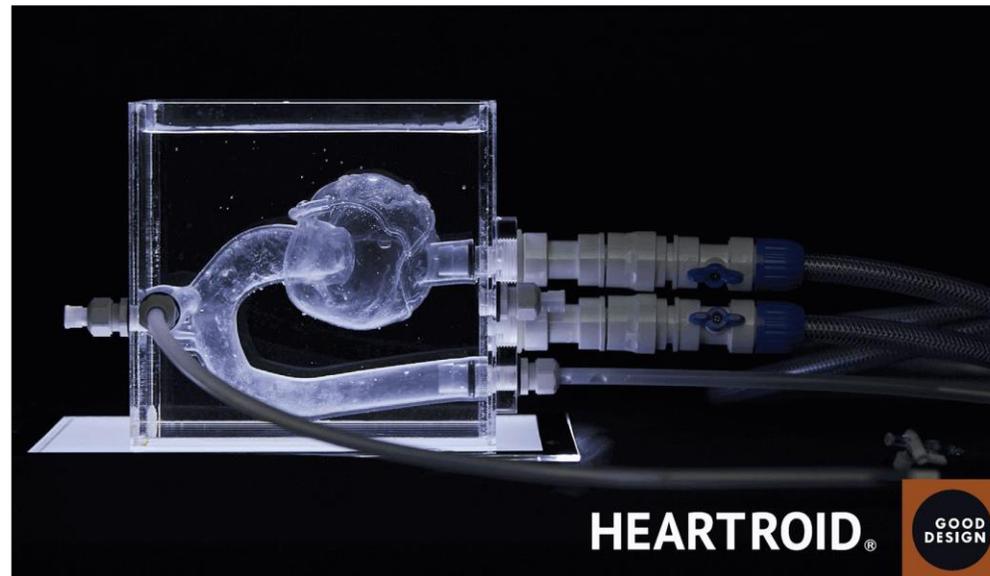
工業部品の試作やモックアップを3Dプリンターで製作するサービスを行っています。豊富なキャパシティで短納期化を実現します。また、2020年7月より3Dプリンターによる樹脂製品の量産サービスを開始しました。

事業紹介



CT事業

産業用CTスキャナを使用した三次元測定サービスを行っています。産業用CTは他の測定方法に比べ、複雑形状や複合部品のスキャンを得意としており、幅広い分野で活躍しています。

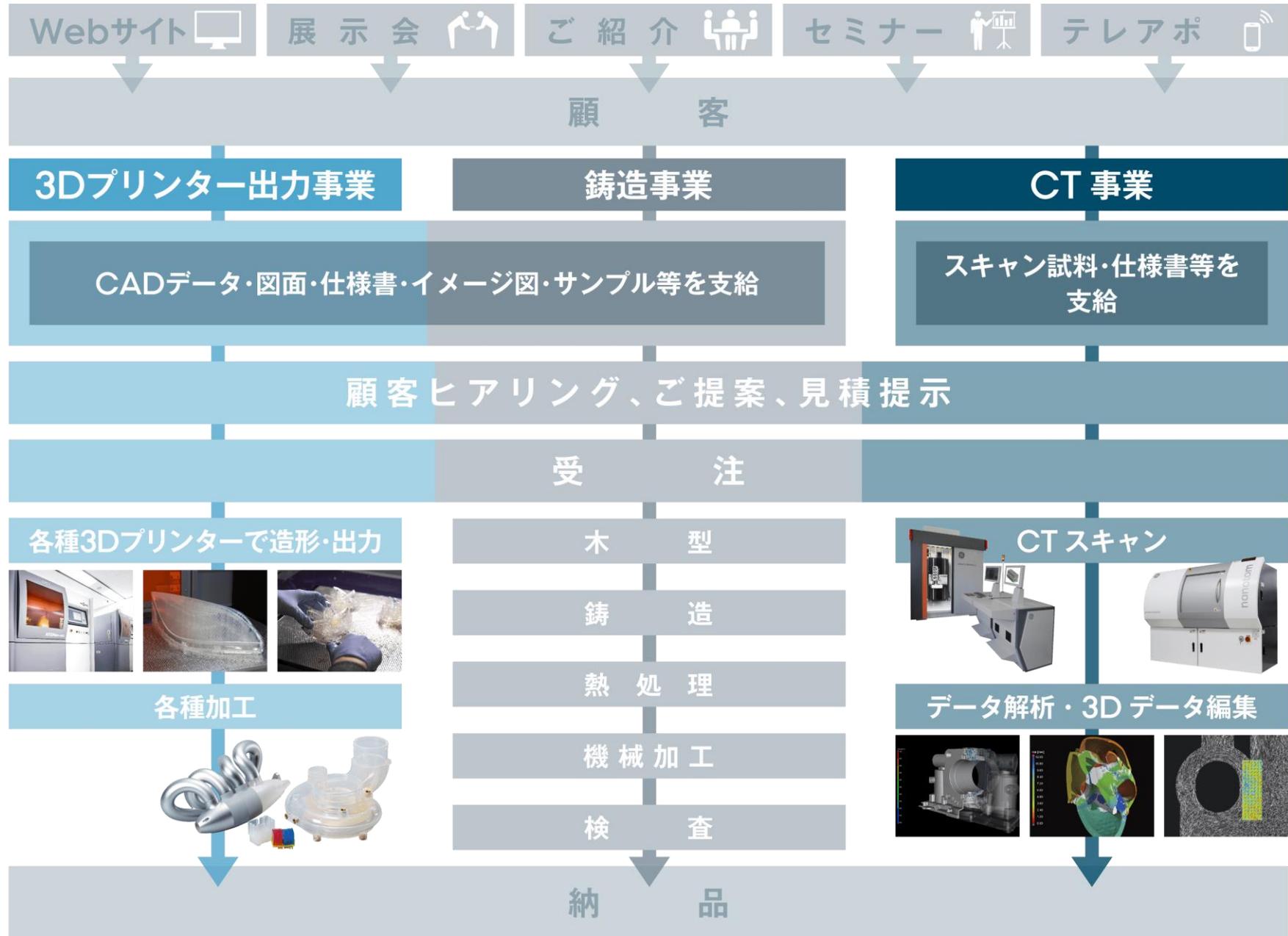


メディカル (HEARTROID)

心臓カテーテルシミュレーター「HEARTROID(ハートロイド)」をはじめとして、3Dプリンター技術を活用したオーダーメイドの臓器モデルや医療用シミュレーターを開発・製造し、治療技術の向上に寄与しています。

※3Dプリンター出力事業の一部

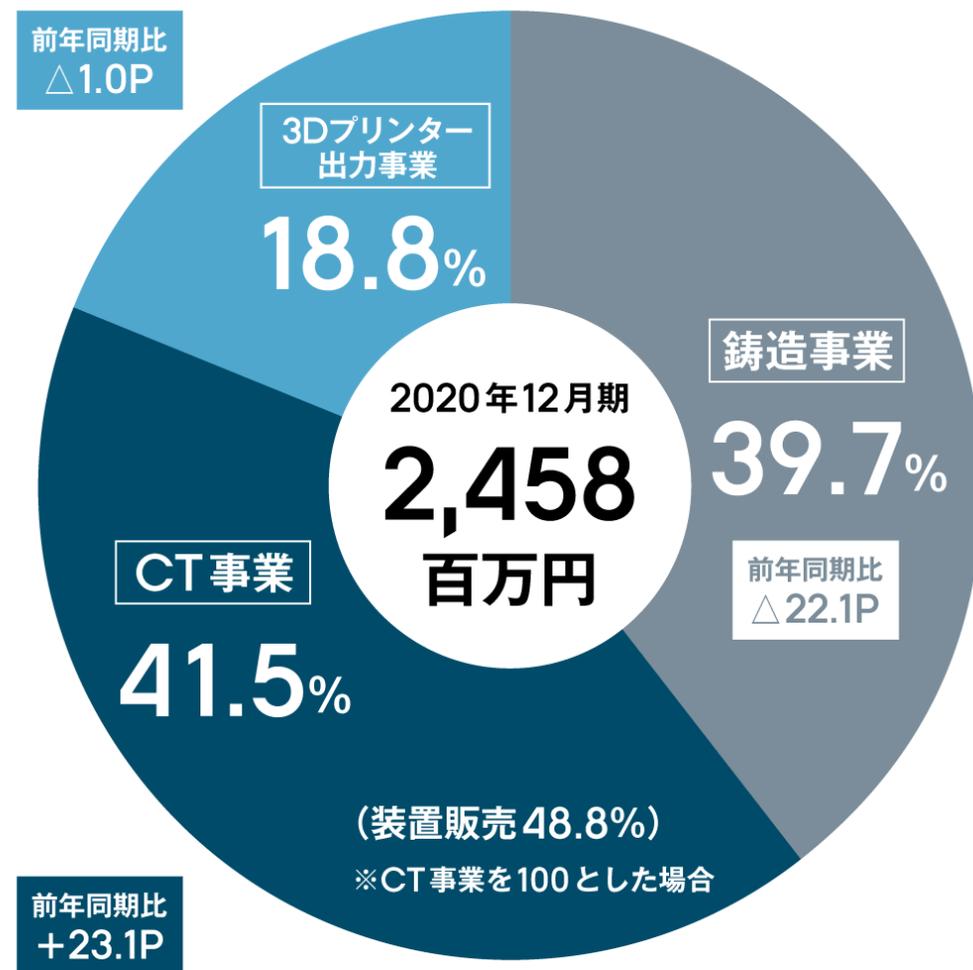
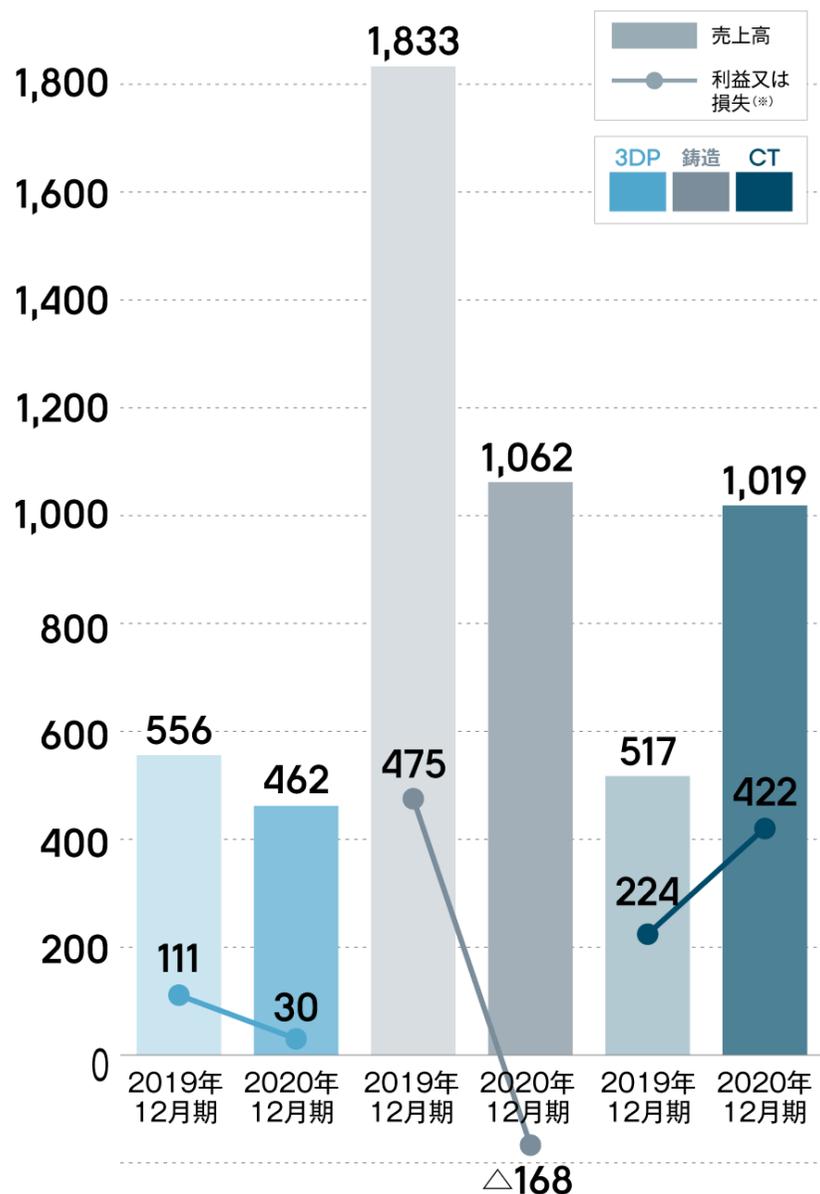
事業フロー



セグメント別売上高

※左図は内部取引を含む

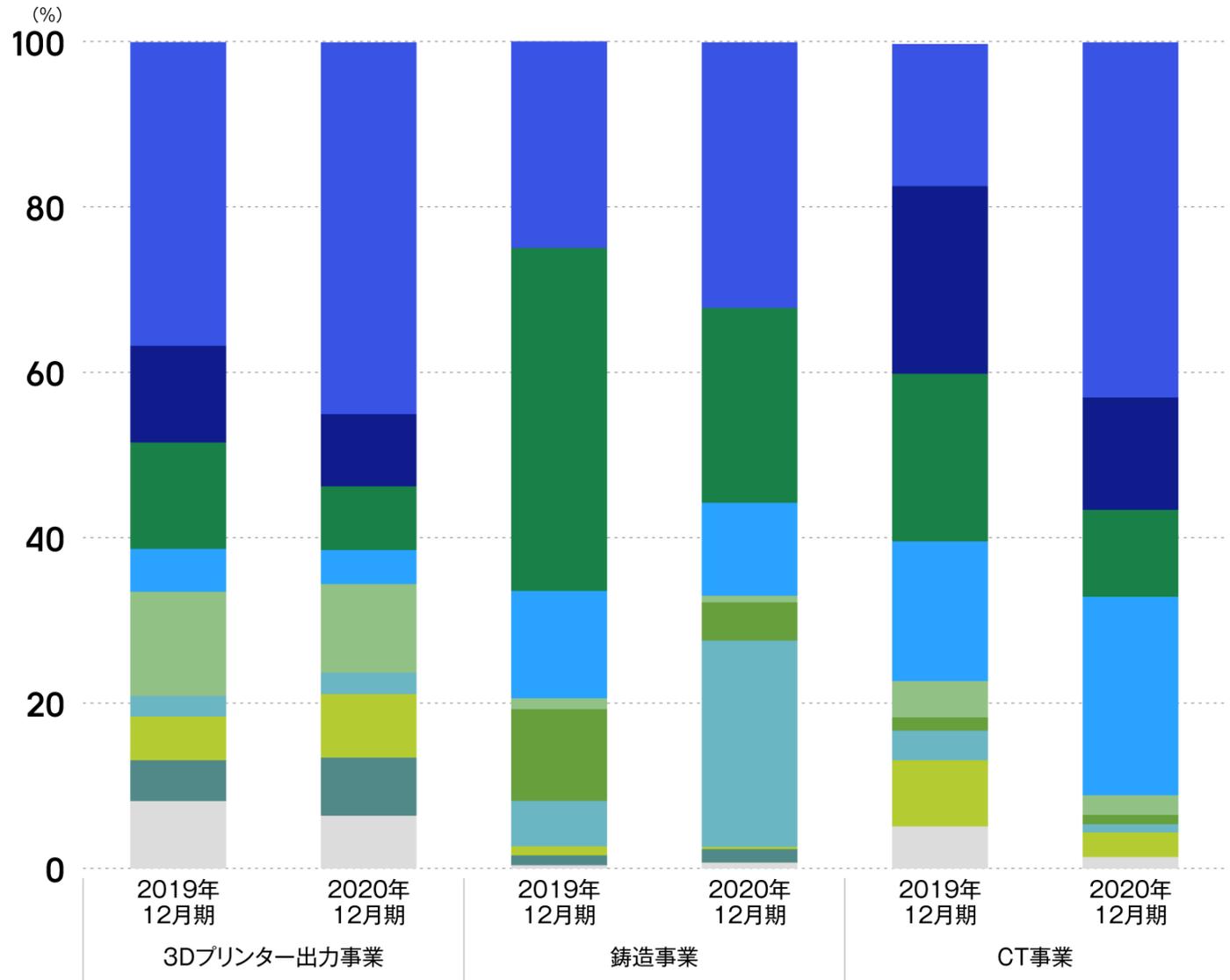
(単位：百万円)



2020年12月期

産業別売上高比率

- 卸売業
- 専門サービス業
(他に分類されないもの)
- 電気機械器具製造業
- 輸送用機械器具製造業
- 精密機械・医療機械器具製造業
- 鋼工業、非鉄金属製造業
- 一般機械器具製造業
- その他製造業
- 広告・調査・情報サービス業
- その他の事業サービス業
- その他



※株式会社帝国データバンクのTDB産業分類表の中分類から当社作成

取引実績 産業分類

3Dプリンター出力事業

取引業種



鋳造事業

取引業種



CT事業

取引業種



I. 会社概要

II. 当社の特徴・強み

III. 事業環境と今後の成長戦略

3Dプリンター出力事業の強み

3Dプリンター出力事業における当社の優位性



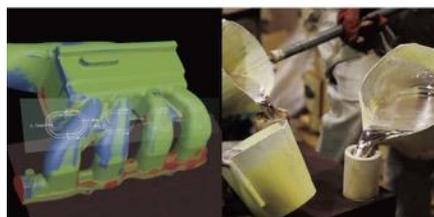
20年以上に渡って事業継続している実績

3Dプリンター黎明期から事業を開始。お客様のご依頼に最適な工法の提案と最短納期実現のために、蓄積されたノウハウを惜しみなく反映



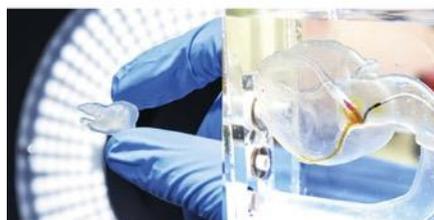
国内有数の生産キャパシティ

工業部品の試作・量産に特化したハイエンド3Dプリンターを中心の設備保有
(光造形機：9台 粉末焼結造形機：1台 インクジェット式造形機：2台等)



鑄造事業、CT事業の技術活用による対応力

3Dスキャンによるデータ化、試作プロセスに応じて鑄造品の提案などをワンストップサービスで実現



医療分野への親和性

オーダーメイド医療モデル作製サービスでは、多様な材料への対応により人間の臓器形状を忠実に再現。カテーテルや内視鏡などの手技トレーニングキットの制作も可能

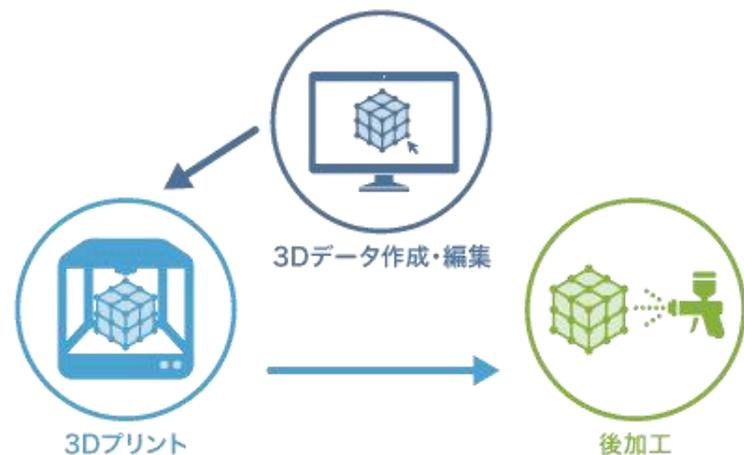


3Dプリンター分野のリーディングカンパニーとして、
造形の可能性や新市場の開拓を常に追求

3Dプリンター出力サービス

JMCは3Dプリントを中心とした試作サービスを短納期で提供し、お客様の製品開発をサポートしています。

ものづくりをトータルでサポート



JMC MADE BY JMC

徹底したスピード対応

短納期対応するため、工場稼働を止めない環境を整えております。

また、迅速なお見積回答を掲げ、各種配達サービス、お引き取りやお持ち込みに対応いたします。

最短 翌々日 発送！！



3Dプリンター一保有台数

国内最大規模
13台保有

光造形機	9台
粉末焼結造形機	1台
フルカラーインクジェット式造形機	1台
インクジェット式造形機	1台
砂型3Dプリンター	1台

3Dプリンター出力事業 — 医療用シミュレーターの開発 —

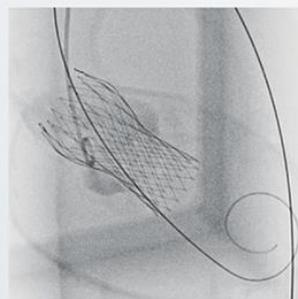
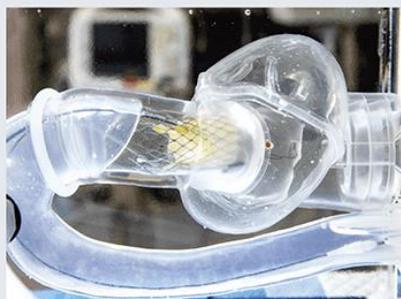
心臓カテーテル治療トレーニングシステム「HEARTROID」の販売

HEARTROID®

MEDICAL TRAINING SYSTEM

『ハートロイド』は心臓カテーテル治療に携わる医師やデバイスメーカー向けのトレーニング／検証システムです。

拍動ポンプが標準装備されており、X線透視下で造影剤を用いたトレーニングやシミュレーションを行うことが可能です。



www.heartroid.jp/



JMC MADE BY JMC

医療モデル作製 3Dプリンターを利用したオーダーメイド医療モデル作製サービス

エポキシ系樹脂（光造形）



複雑な形状でも短時間かつ、一体で形づくることができます。レーザーを使って液体樹脂を一層ずつ硬化させてモデルを製作するため、刃物による「角R(角が丸くなること)」がありません。このため、骨や臓器などの微細な形状を再現できます。

シリコン



柔らかく劣化しにくい、高い透明度を持つ素材です。シリコンシンナーを使用することで、0～60°まで様々な硬さのモデルを製作することができます。

PVA（ポリビニルアルコール）



人間の臓器と非常に近い触感を持つ素材です。柔軟かつ水分を含むため、すべり性があり医療機器のトレーニングモデルなどを製作するのに適しています。

ウレタン



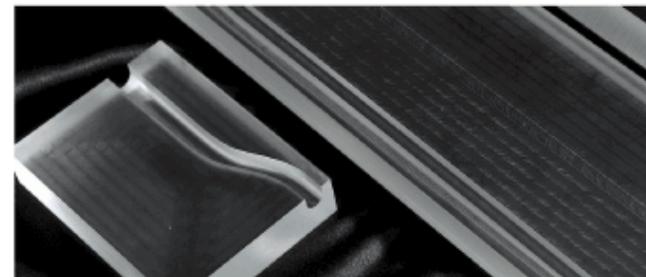
人間の肌や柔組織と近い触感を持つ素材です。硬さを調節することが可能なため、柔らかいものから硬いものまで、様々なモデルの製作に使用することができます。

超音波対応素材



超音波検査において人体と非常に似た造影を示す素材です。PVAを基本的な素材としており、画像を人体に近づけるためにプラスチックフィラーを含んでいます。乳がん検診のトレーニングモデルなど、様々な製作実績があります。

切削素材



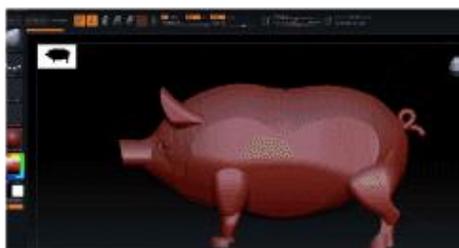
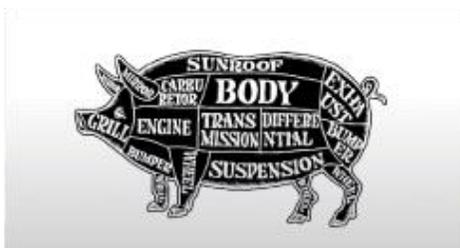
アクリル・ポリカーボネート・ポリプロピレン・ABS樹脂など、劣化しにくい頑丈な素材です。3Dプリンターではなく、切削工法で使用することができます。単純な形状のモデルや臓器モデルの付属品製作に適しています。

JMCのサービス内容

平図面・イラストからのモデリング



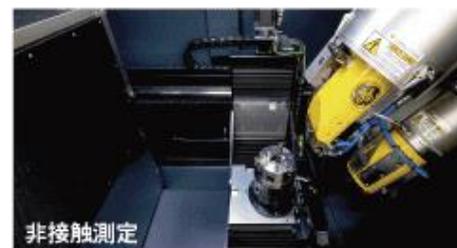
3Dデータをお持ちでない場合、平面図やイラストからデータ作製させていただくことも可能です。専門のデータチームがお客様のイメージを形にします。また形状編集のみのご相談も承りますので、お気軽にご相談ください。



リバースエンジニアリング



もともになる実物をお持ちの場合、3Dスキャンによるデータ化が有効です。3Dスキャンによって得られた形状を、そのまま3Dプリントしたり、CAD面化して編集するなど、幅広いサービスを社内一貫で提供しています。



鑄造事業の強み

鑄造事業における当社の優位性



素材から加工まで一貫した製造工程
による短納期の実現



機械加工専門工場による
加工キャパシティの充実



職人技のデジタル化による人材育成
ノウハウ



最新鋭の検査設備による高度な
品質保証体制



砂型3Dプリンターなどの新技術を
導入

鑄造業界の慣例である
重量に応じた価格



ではなく、
製品毎の技術難易度に
応じたプライシング
を実現

鑄造事業における当社の優位性（短納期を実現する製造工程）



問題

- ・品質管理が困難
- ・配送による時間のロス
- ・生産管理が煩雑

JMC は素材から検査まで社内一貫体制



砂型鑄造による試作・小ロット量産

用途

アルミ・マグネシウム
部品の試作

生産数目安

1個～500個

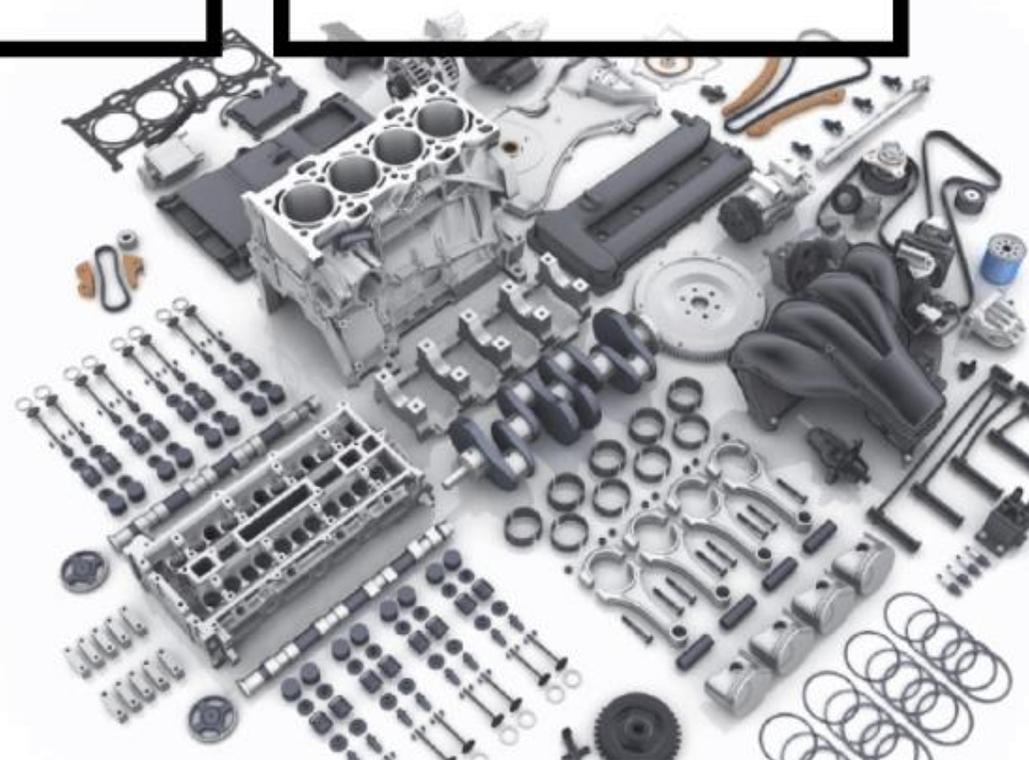
顧客

自動車・産業機器
船舶・航空機

自動車に使用されるアルミ鑄物の 多くを生産

シリンダーヘッド
シリンダーブロック
オイルパン
ヘッドカバー
クランクケース
タービンハウジング

イミングチェーンカバー
オルタネーター
インテークマニホールド
フェーエルデリバリーパイプ
オイルポンプ



砂型3Dプリンター



S-Print 装置概要

名称	S-Print (ExOne社製)
造形BOXサイズ	L800 × W500 × H400 mm
結合剤タイプ	フェノール
積層ピッチ	0.24 mm
造形解像度	X0.1 mm / Y0.1 mm

ExOne社の砂型3Dプリンターを 2019年6月に導入

3Dデータから直接砂型を造形することで、木型を必要とせず大幅な納期短縮に繋がります。



例：4気筒シリンダーヘッド



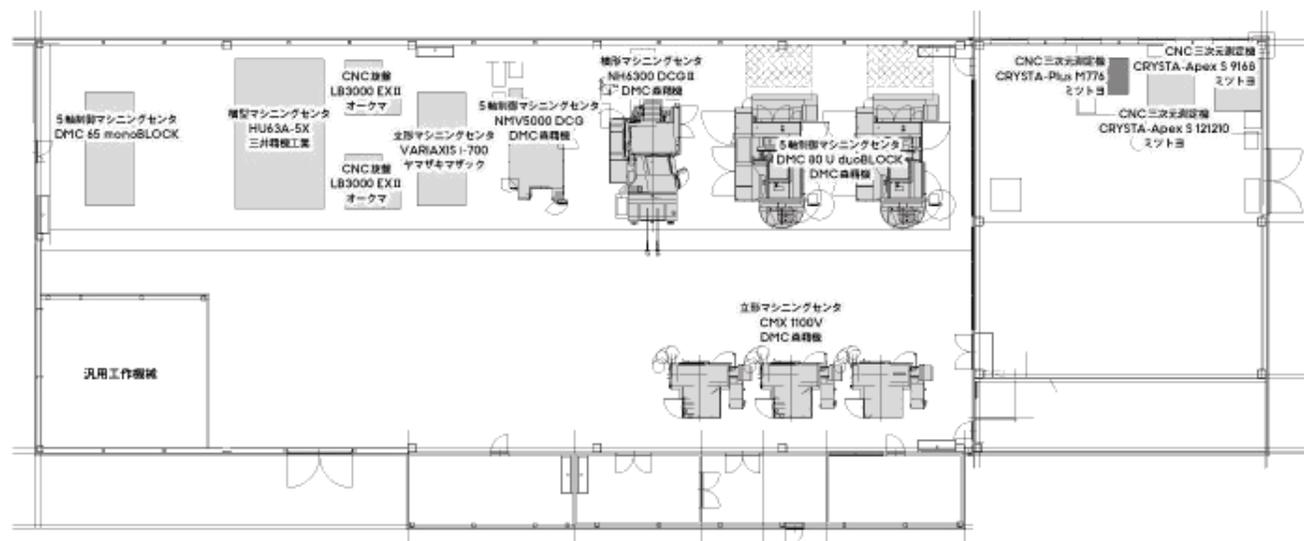
5週間 ▶ 最短 10~14日間

鋳物加工に特化した 機械加工工場

JMC
MADE BY JMC

あらゆる鋳物加工を実現

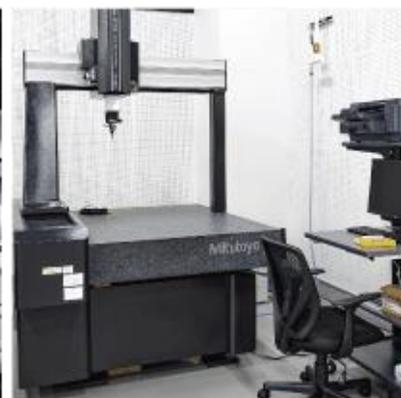
5軸制御のマシニングセンタをはじめ、各種機械加工機を配備し、あらゆる鋳造品の加工に対応します。シリンダーヘッドやミッションケースといった高難度の機械加工や、高い精度を要求される製品の製造実績も有しています。



充実した生産設備



加工エリア



CRYSTA-plus M776



CRYSTA-apex S 121210



NMV5000 DCG



DMC 80 U duoBLOCK

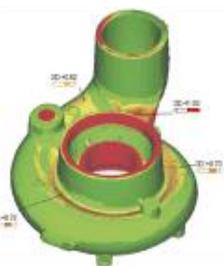


NH6300 DCG II

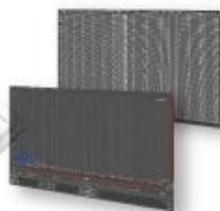
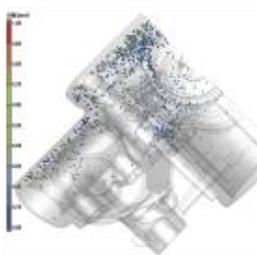


測定エリア

品質保証



1 非接触の形状測定



4 X線CTによる欠陥検出



7 加工精度の保証



木型



鑄造

生産工程



熱処理



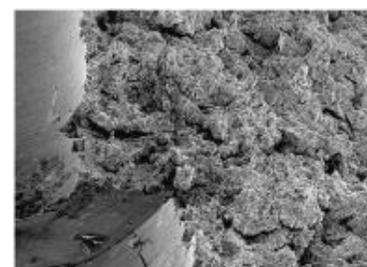
機械加工



2 溶湯管理



3 合金成分の管理



5 組織観察



6 実体強度試験

鑄造事業における当社の優位性（人員構成）

従業員の年齢構成

職人技術を汎用化（デジタル化）することで人材の有効活用を実現

鑄造事業従事者の
平均年齢

39.4歳



JMCの鑄造事業
一貫したデジタル技術の導入に
よって業界では異例の平均年齢

29.5歳

*2021年4月末時点



CT事業の強み

非破壊検査・三次元測定・3D スキャン

産業用CTスキャンサービス

JMCは産業用に特化したCTスキャナを使用した検査・測定サービスを行っています。
高精度、高出力のハイエンド産業用CTを6台体制で、製品内部の品質検査や複雑形状の3Dデータ化に圧倒的な短納期に対応します。



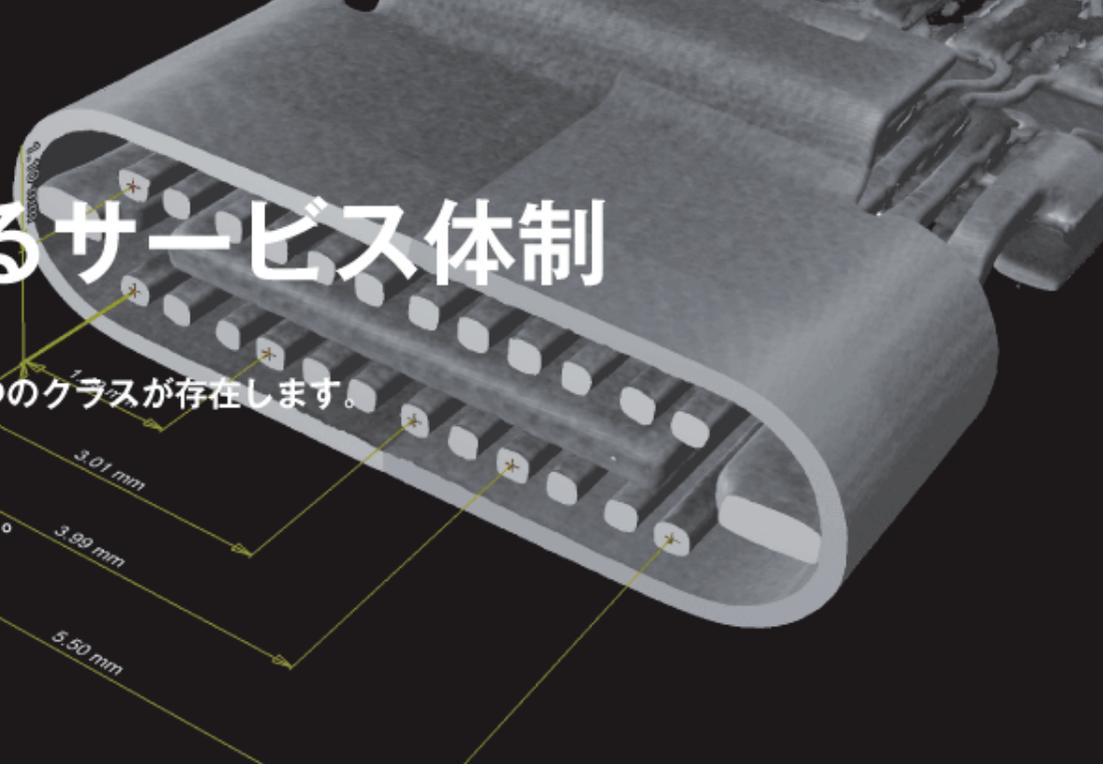
納品形式	
ボリュームデータ	VGL、DICOM その他生データ等
断層画像	JPEG、PNG、TIFF、動画等
3Dデータ	STL、OBJ、IGES、STEP、Parasolid等

産業用CTは非破壊検査だけではなく、実物の3Dデータ化や構造解析など、様々な用途に利用されます。

JMCはあらゆる業界向けにサービス提供を行っており、豊富な撮影実績で高品質なスキャンデータを提供します。

全ての領域をカバーするサービス体制

産業用 CT には撮影対象の大きさや材質ごとに最適化された 4 つのクラスが存在します。
JMC ではそれら全ての領域に対応可能となっており、
産業用 CT でできることを網羅したサービス体制を敷いています。



産業用CTの分類



JMCは全ての領域をカバーしています

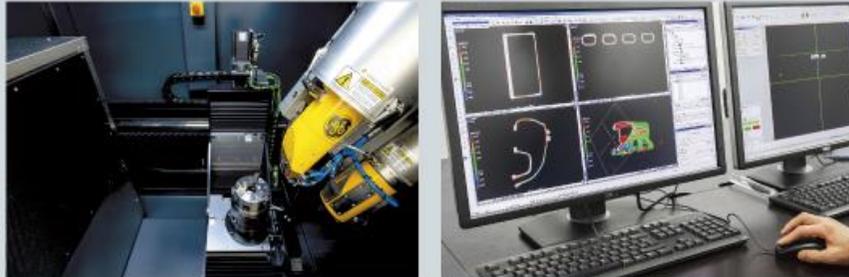
JMC MADE BY JMC



装置・ソフトウェア販売と受託サービスの相乗効果

受託サービス

年間10,000スキャン以上を実施し、スキャン技術のノウハウを蓄積



装置・ソフトウェア販売

日本ベーカーヒューズ社および VolumeGraphics 社と販売代理店契約を締結
ハードとソフトの両方を販売する



受託サービスにより顧客の需要動向を敏感に察知することで、装置・ソフトウェアの効果的な販促活動を実施。また販売によって得たノウハウを受託サービスにも還元することで相乗効果を生む。

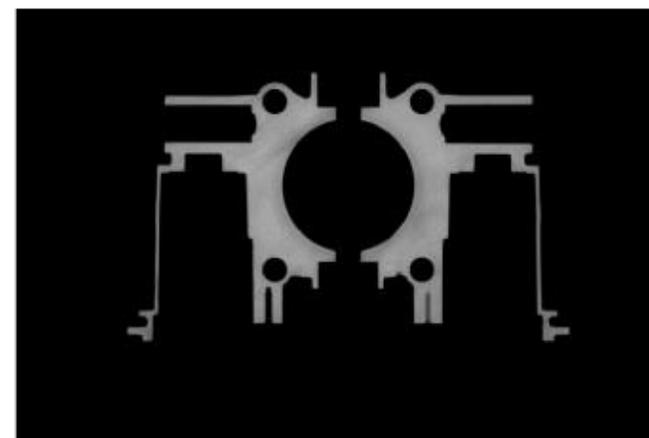
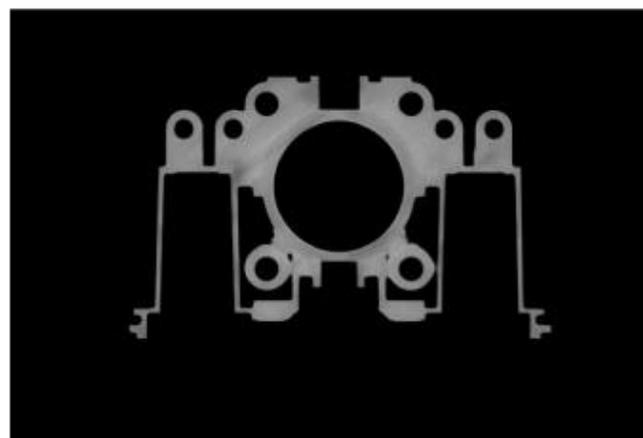
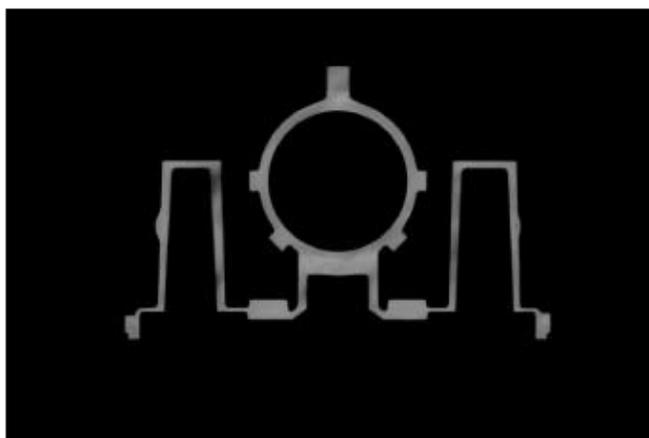
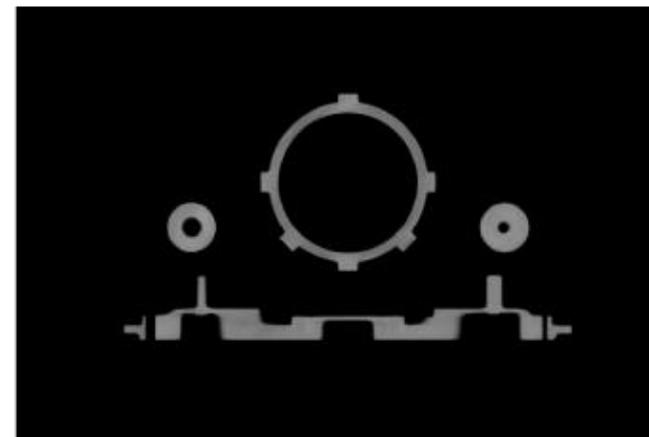
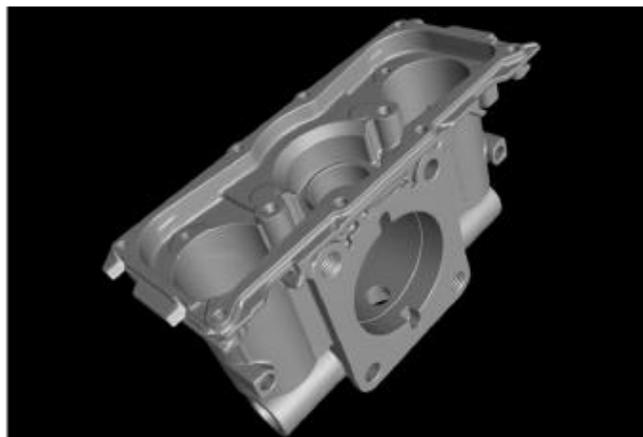
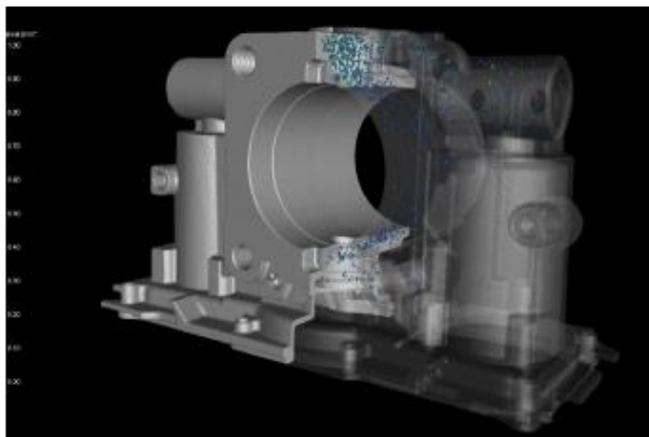
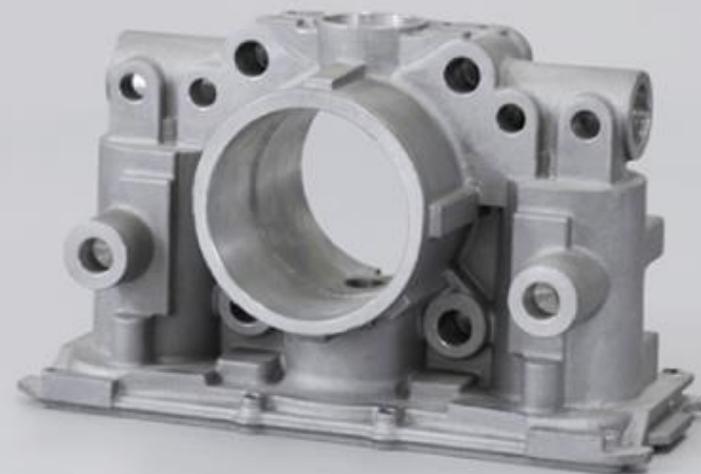
鋳造品の非破壊検査 鋳巣を可視化する

撮影装置：phoenix v|tome|x c450

試料寸法：180 × 69 × 109 mm

試料材質：アルミニウム合金

スキャン時間：60 分以内 ポクセルサイズ：133 μ m



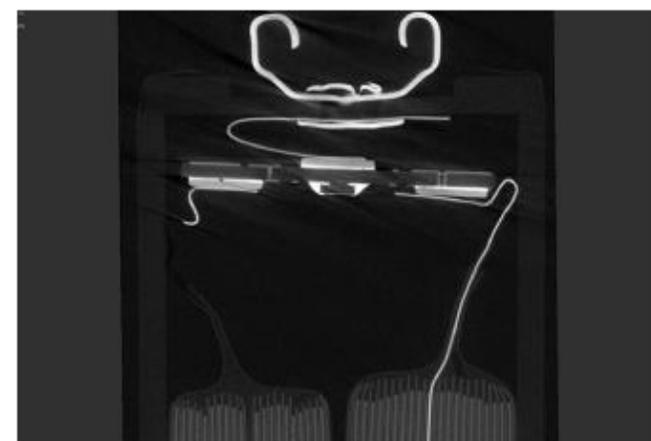
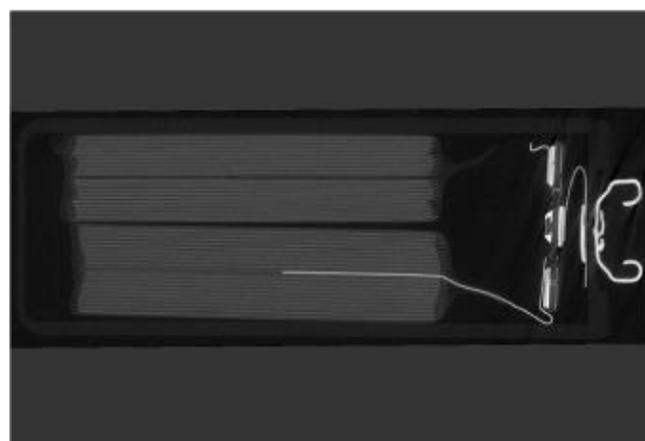
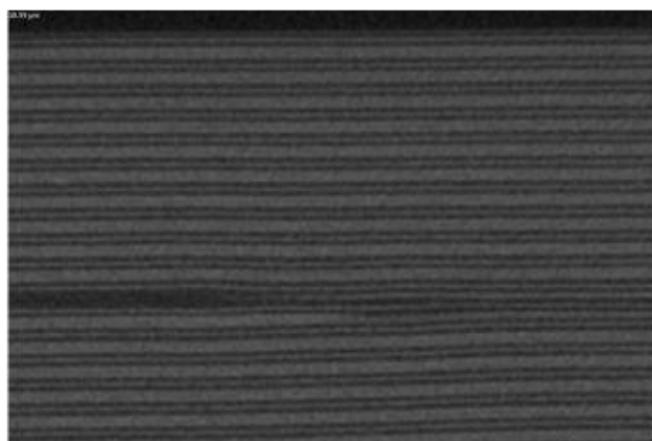
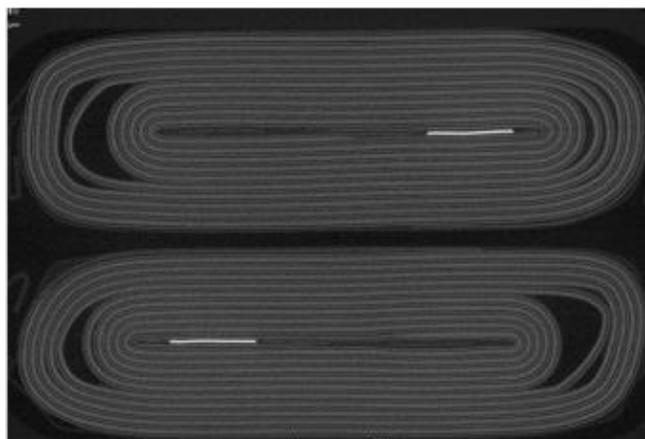
リチウムイオン電池の 非破壊検査

撮影装置：phoenix v|tome|x m300

試料寸法：25 × 16 × 47 mm

スキャン時間：20 分

ボクセルサイズ：17.0 μ m



I. 会社概要

II. 当社の特徴・強み

III. 事業環境と今後の成長戦略

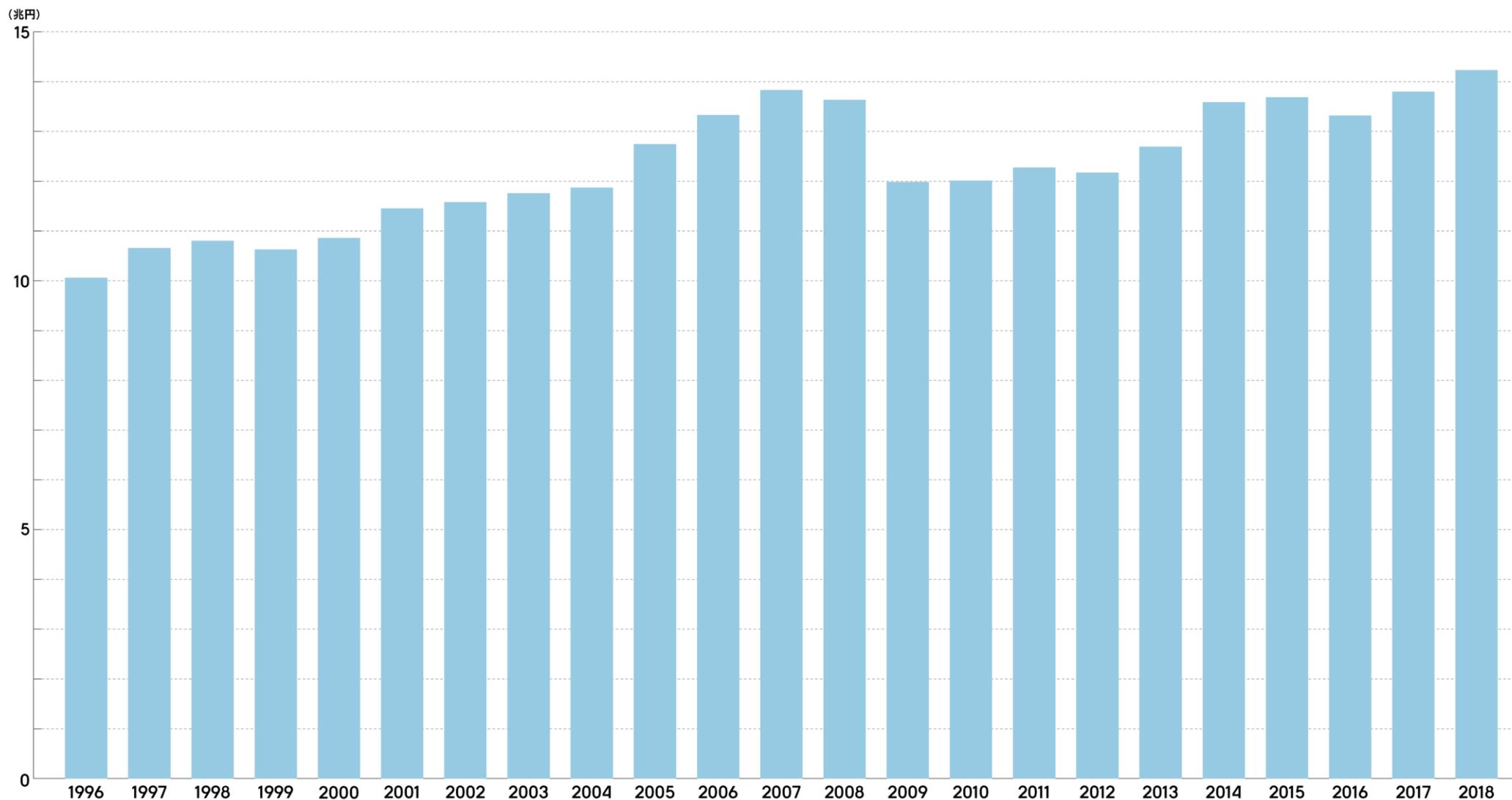
事業環境

国内製造業の研究開発費について

研究開発費は高水準を維持

国内製造業の研究開発費の推移

(出典) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所、「科学技術指標2020」を基に、当社が加工・作成。



Additive Manufacturing市場の可能性

NTTデータザムテクノロジーズ社・EOSジャパン社との三社連携により、国内未開拓の樹脂AM市場の開拓を進める

顧客ニーズ創出のための啓蒙活動を推進
～WEBセミナー、サービス体制強化を通じたニーズ喚起～

Additive Manufacturingとは

3Dプリンターによる積層技術は、これまで「Rapid Prototyping（高速試作）」と呼ばれてきました。しかし近年の積層技術の進歩によって、試作用途に留まらず、3Dプリンターで最終製品を製造するという考え方が普及し始め、「Additive Manufacturing（付加製造）」という言葉に置き換わりつつあります。「Additive Manufacturing」とは、3Dデータを参照して、素材を積み重ねて形をつくる製造方法であり、その強みを生かすためには、従来の素材を切削する「除去加工」や、素材を変形する「塑性加工」とは全く異なる設計思想を要します。当社では、20年以上取り組んできた積層技術のノウハウを活用し、設計段階からの支援を行うことで、新しい生産技術を顧客に提供していきます。

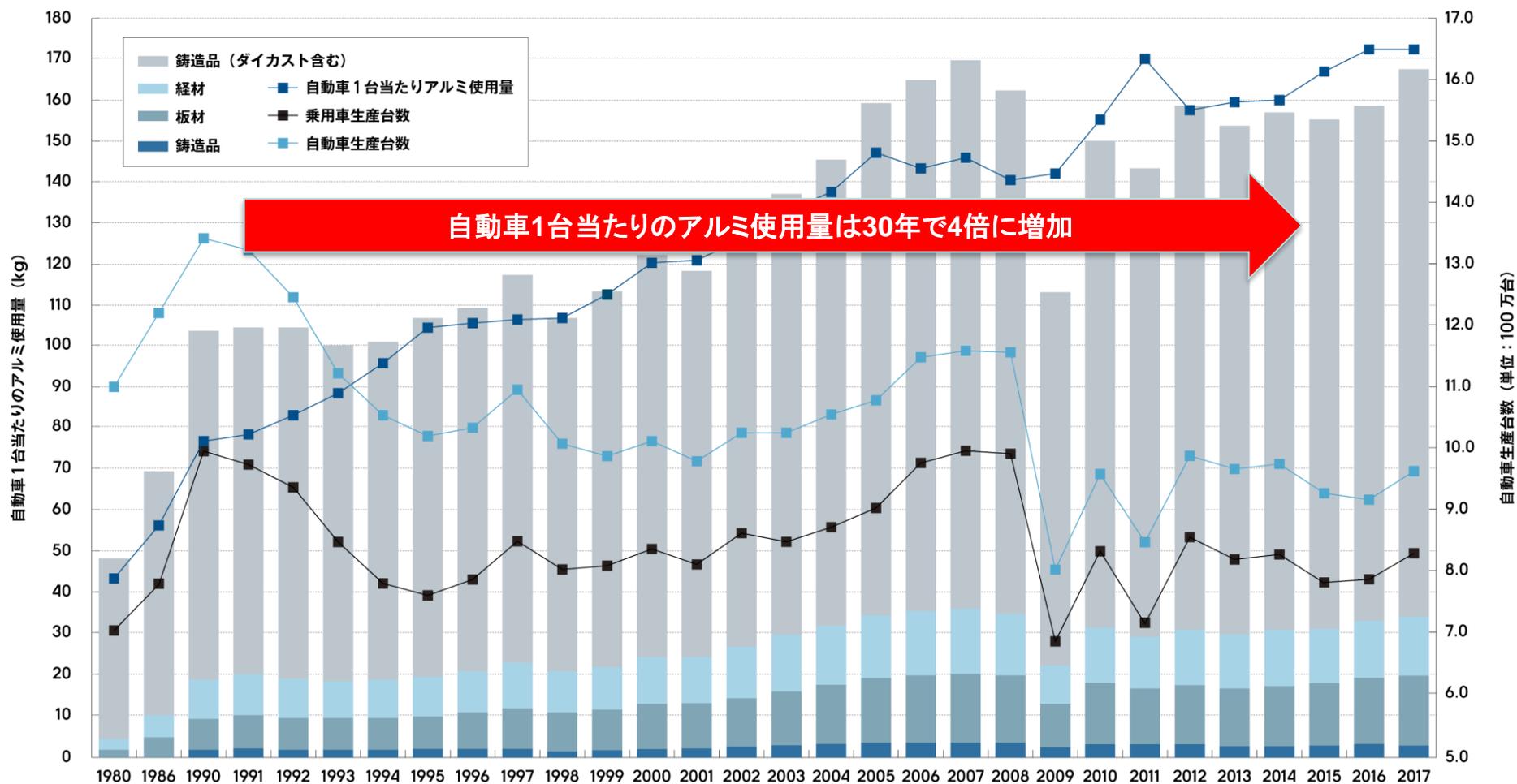


アルミニウム鑄造市場

生産台数が減少する一方、アルミニウム鑄造部品は急増

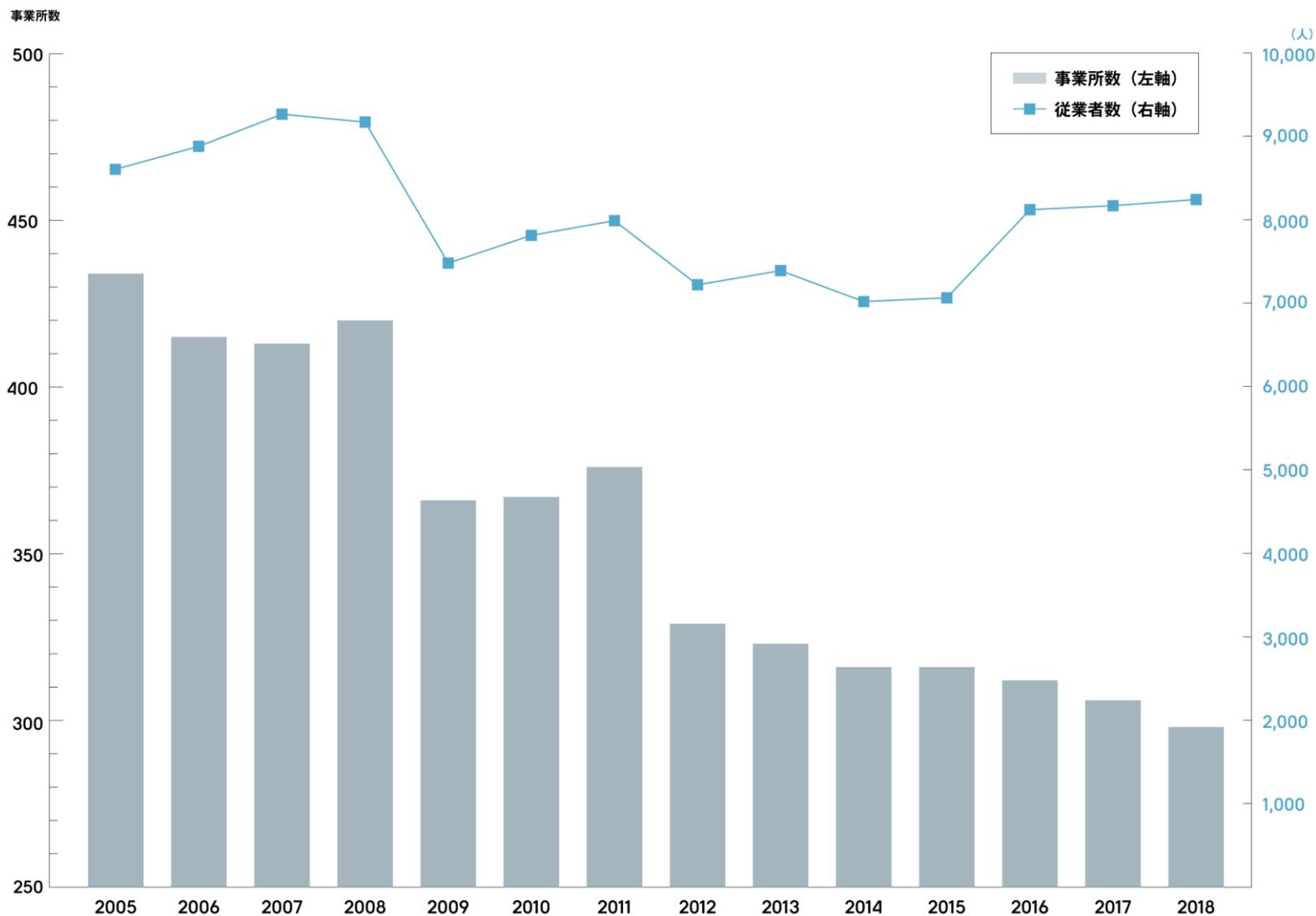
自動車産業は環境問題、安全問題への対応から、車体の軽量化が進展。自動車部品については、①材料の高強度化、②鑄造技術改善による薄肉化、③鑄鉄からアルミニウム、④構造の見直しによる部品一体化（複雑一体部品の鑄造技術）等の変化が進んでいる。

注）自動車1台当たりアルミ使用量は、自動車向けアルミ製品総量を国内自動車生産台数で除した数値



非鉄鑄造市場

非鉄金属鑄物の供給者の減少により、当社の需要獲得機会は増加



※海外と競合するのは主に大量生産品であるため、当社の競合としては国内業者を想定

出所: 経済産業省 工業統計表

今後の成長戦略

2020年12月期 業績推移ハイライト

単位：百万円	2020年12月期 当初見通し 【2020/2/13】	【2020/5/14】 新型コロナウイルス感染症拡大による、事業環境の見通し悪化を受け、通期業績予想数値取下げ	2020年12月期 修正見通し 【2020/11/12】	2020年12月期実績		
				2020年12月 期実績	増減額	増減率
売上高	2,927		2,300	2,458	158	6.9%
営業損益	205		△ 300	△ 220	79	26.5%
営業損益率	7.0%		△ 13.0%	△ 9.0%	-	4.0P
経常損失	194		△ 290	△ 206	83	28.7%
経常損益率	6.6%		△ 12.6%	△ 8.4%	-	4.2P
当期純損失	128		△ 230	△ 173	56	24.7%

3Dプリンター出力事業

期末にかけて短納期の試作需要がやや増加



鑄造事業

FA関係での量産案件納品前倒し対応、自動車関係試作が想定より上振れ



CT事業

2021年1月想定 of CT装置売上が前倒し



今後の設備投資計画

取得済産業用地の活用（コンセプトセンターの拡張）

当初の計画を変更し、需要動向を見極めつつ投資判断の機会を待つ

｜ コロナ禍で新たに発生したFA関連の需要

｜ 次世代モビリティ関連部品需要

｜ 製造、品質面のスキルアップにより、中長期的な視野での航空・防衛分野需要への対応

コンセプトセンター拡張予定（長野県飯田市伊豆木地区）



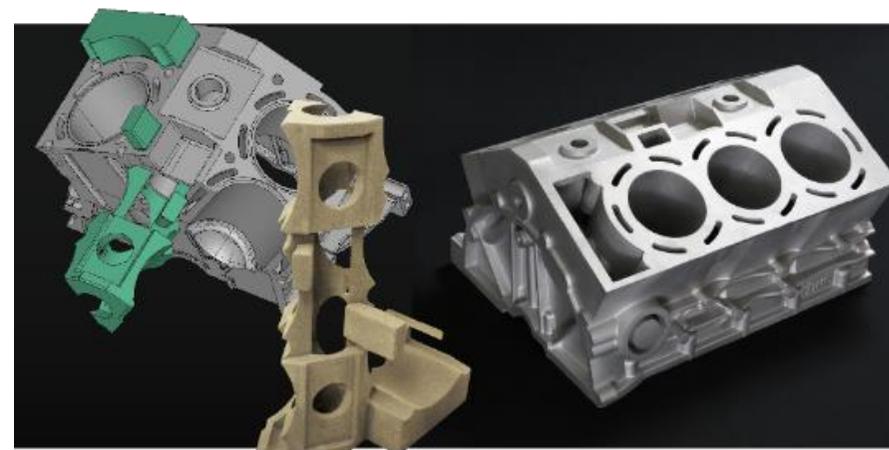
3Dプリンター技術と鑄造技術の融合の推進



砂型鑄造で使われる木型を介さず、3Dプリンターでの鑄型を作成する砂型鑄造法の推進



短納期化とコストダウンを追求



自社保有の産業用CTスキャナ活用提案の推進



スキャンした物体の形状から3次元CADデータを得ることで、設計過程を効率化

市場の状況

大量生産・大量消費ニーズの終焉



多品種小ロット（高付加価値）案件の増加で受注機会の増加が見込まれる

航空宇宙



少量しか作らない

自動車・バイク・産業機器・家電など



量産からパターンオーダー

医療



オーダーメイド

Cross-functional & 提案力

他社にできない事業シナジー

「ものづくり」にとどまらず事業の垣根を超えた連携強化

製造業にできないサービスレベル

「サービス業レベルのサービス体制」実現マインド醸成

ニッチトップを狙えるプロダクト創出

「小回り力・総合力」による競合他社との差別化推進

2021年12月期見通し

単位：百万円	2020年12月期	2021年12月期	増減額	増減率
売上高	2,458	2,584	125	4.8%
営業利益又は営業損失	△ 220	26	246	-
営業利益又は営業損失率	△ 9.0%	1.0%	-	10.0P
経常利益又は経常損失	△ 206	56	263	-
経常利益又は経常損失率	△ 8.4%	2.2%	-	10.6P
当期純利益又は当期純損失	△ 173	37	210	-

新型コロナウイルス感染症の影響により、試作・開発市場の不透明感は継続中

2020年2月稼働のミーリングセンターの拡充によって納期短縮と受注獲得領域を拡大

自動車市場依存の売上構成からの脱却を目指し、少量生産から量産を視野に他分野への営業活動を推進

採算性の回復へつなげる

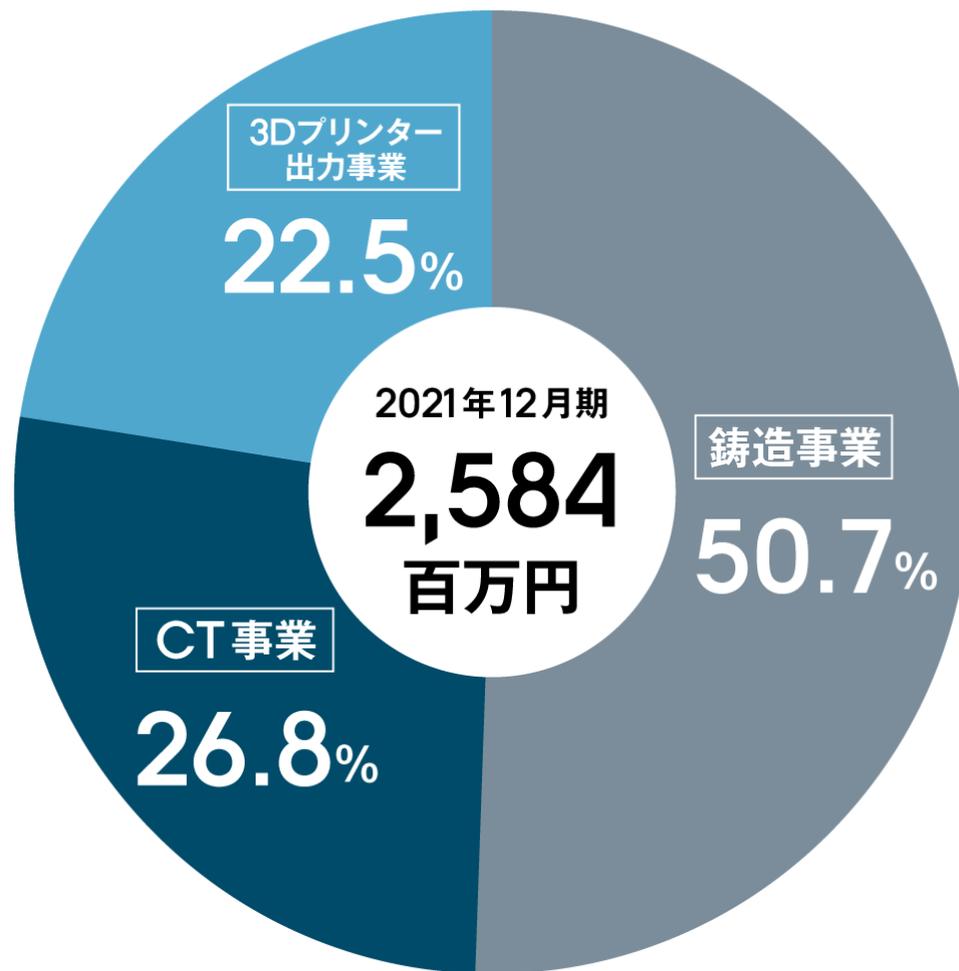
2021年12月期 セグメント別見通し

単位：百万円	売上高				セグメント利益又は損失			
	2020年12月期	2021年12月期	増減額	増減率	2020年12月期	2021年12月期	増減額	増減率
3D プリンター 出力事業	462	582	119	25.8%	30	77	47	156.4%
鋳造事業	1,062	1,395	332	31.3%	△ 168	124	292	-
CT事業	1,019	691	△ 328	△ 32.2%	422	284	△ 137	△ 32.5%
その他 (内部取引)	△ 85	△ 84	1	-	△ 504	△ 460	44	-

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては見通し変更も検討

※ CT事業の減少見込みは、CT装置販売台数の影響によるもの

セグメント別売上高比率の見通し



2021年12月期

2021年12月期の取り組み

Additive Manufacturing プロダクト化を視野

NTTデータザムテクノロジーズ社を迎え、AMによる設計開発
ノウハウの蓄積と量産を視野に入れた品質面の強化を実施

AM開発を志す顧客ニーズの早期具現化のため、技術情報共有と
設備融通など、柔軟な協力体制とワンストップサービスを構築

顧客ニーズ創出まで踏み込めるプロダクト提案力の向上
～環境負荷・事業継続などの側面からAMの優位性を訴求～

JMC
MADE BY JMC



NTT Data
株式会社NTTデータ ザムテクノロジーズ



EOS

3社協同のメリット最大化と
プロダクト創出による市場の新たなニーズを喚起



2021年12月期の取り組み

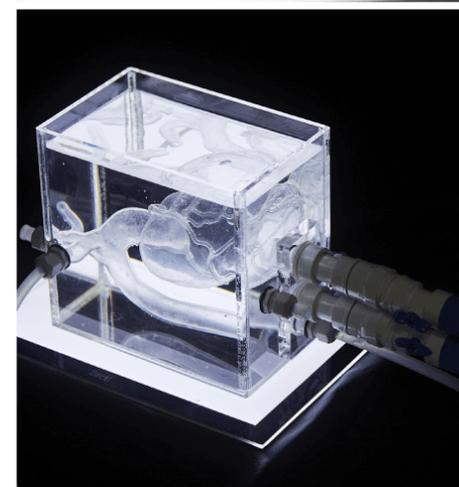
HEARTROID PROJECT (ハートロイドプロジェクト) 世界の心臓病疾患の安全な治療に向けた活動を本格化

マサチューセッツ工科大学 TTDD (Therapeutic Technology_Design&Development) Labと
クリエイティブパートナーシップ開始

▶2020年12月よりTTDD Labで心血管デバイス開発に利用開始

欧州地域の販売拡大に不可欠な「CEマーク」の認証取得

米国で認知度が高い「The Good Design Award」に
おいて、2020年度メディカル部門で日本から唯一の受賞



HEARTROID が全世界で活用されるための
サービスインフラの構築を開始

HEARTROID : 当社が国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科及びフヨー株式会社と共同で開発した心臓カテーテルシミュレーター

JMC MADE BY JMC

2021年12月期の取り組み

内製化の強化と新市場・新分野で JMC を体現

高性能5軸加工機など10台の切削加工機を擁するミーリングセンター稼働により、「鋳造+機械加工」ニーズを強力に獲得

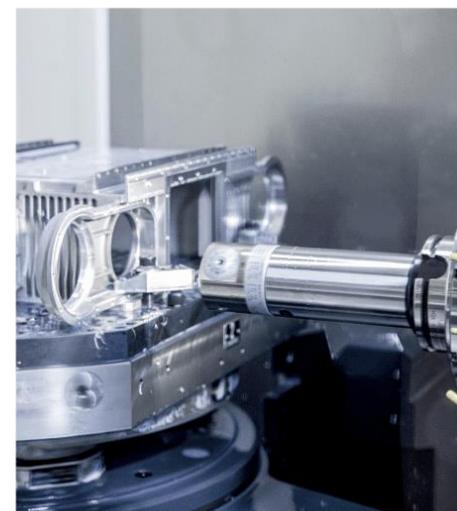
レストア分野での部品供給に進出
JMCだから対応可能な品質・数量を
様々なチャネルを通じて提案



JMC
B△SE

航空・防衛分野では、初ロット品納入に向けた最終段階に到達

量産品や高付加価値品への対応力を更に強化
新市場、新ニーズの発掘にも注力



2021年12月期の取り組み

世界のものづくり企業から必要不可欠な事業へ

学術研究分野、教育分野などの撮像ニーズにも応えるためのサービスの強化

オンラインセミナーの継続やメールマガジンの発行、SNSに加え、データ頒布や初回撮像の無償対応など距離を感じさせないサービスメニューの充実化

月1回配信されるメールマガジンをスタート▶



CT撮像のフロンティア企業として、蓄積ノウハウの標準化・共有化を進め、DXを強く意識したビジネスモデルの構築に向けて始動

CT撮像の可能性にこだわり、
既存市場の深耕と新市場への拡張を同時に進める



2021年12月期の取り組み

デジタルコンテンツのさらなる拡充

CTスキャン、AMに関する技術セミナーを定着化

- ▶ セミナー視聴者数の倍増と視聴者分野の拡張

オンラインハンズオンを新たに開催

- ▶ 常設スタジオを備え、本格的なサービス提供を検討

事業サービスサイトリニューアル、コンテンツの充実化を推進

- ▶ オンライン決済システムの導入など、B2B2Cを意識したサイト制作

レストア専門サイト『JMC BASE』のコンテンツ強化

- ▶ YouTubeチャンネル「JMC BASE」と連携し、ものづくりの過程も視聴者と共有



事業等のリスク

① 市場環境について

当社は、工業製品の新品開発における試作品作製と少量量産品の作製を行っております。各メーカーにはそれぞれの開発サイクルがあり、特に自動車メーカーにおける開発予算の圧縮、開発スケジュールの変更やモデルチェンジサイクルの変化等の影響を受ける可能性があります。このため当社では、特定の分野、顧客に偏ることのない事業ポートフォリオの構築を進め、業界や市場の動向に合わせた社内組織再編など事業の選択と集中を行い、影響の緩和に努めております。

② 試作開発環境について

試作開発はメーカーごとに手法が異なり、試作品での検証を繰り返す手法もあれば、試作品を作製せずCADソフト上のみで検証を行う試作品レスの手法もあります。今後、試作品レスの手法が主流となった場合、試作品作製のニーズが低減する可能性があります。このため当社では、受注案件を試作開発のみに限定することなく、少量量産領域まで拡張し、高品質な製品をスピーディーに顧客に納入することで満足度を高めるための設備・人員を備えております。

③ 3Dプリンターへの需要拡大について

近年の3Dプリンターに対する需要拡大は、主に消費者向けの低価格3Dプリンターの出現により生まれた現象であります。低価格3Dプリンターで作製できるモデルの品質は限定的であること、また機械の運用よりも作製するモデルの3次元CADデータ作成の難易度が高いことから、この需要の拡大が継続しないことが想定され、当社においても、受注案件の減少に繋がる可能性があります。このため当社では、ハイエンド樹脂3Dプリンターの導入により、さらに高品質、高精度及び短納期を追求するとともに、工業分野のみならず、医療、教育及び芸術など幅広い市場、業種に3Dプリンター製品の需要喚起を進めております。

④ 特定分野への依存について

当社は、受注比率が高い輸送用機器分野の景気が悪化した場合、受注量及び受注金額の減少に伴い、当社の事業、経営成績及び財政状態に影響が及ぶ可能性があります。このため当社では、取引を特定の顧客に偏ることなく、複数の顧客と取引を行うことでリスク分散を図っております。

⑤ 競合企業について

当社は、3Dプリンター、鋳造工法による試作品・少量量産品の作製を事業領域としておりますが、特に3Dプリンターの分野では、大手企業を含む多くの企業が3Dプリンターへの需要拡大の影響から事業展開を進めており、競合企業が増加した場合、当社の事業、経営成績及び財政状態に影響が及ぶ可能性があります。このため当社では、サービス業のサービスレベルで高品質な製品を提供することで競合企業との十分な差別化が図られるよう、事業を推進しております。

※上記以外のリスクについては有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

将来の見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料並びに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

次回の本開示は2022年3月を予定しております。